



安全装備

車を運転するうえで乗員の安全を保護するための
装備について説明しています。

■ シート

正しい運転姿勢	38
フロント シート	39
リヤ シート	41
ソフト フラット シート	47

■ ABS

ABS (EBD機能付)	72
--------------	----

■ シート ベルト

正しい着用	48
3点式ELRシート ベルト	51
プリテンショナー&可変ロード リミッター機構付 シート ベルト	52

■ チャイルド シート

チャイルド シート	53
チャイルド シートの選びかた	55
チャイルド シートの固定のしかた	60

■ SRSエアバッグ

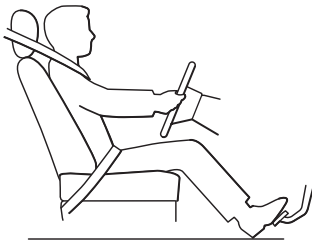
SRSエアバッグ	65
SRSエアバッグ警告灯	71
SRSエアバッグ コンピューター	71

シート

正しい運転姿勢

安全な運転操作を行うため、正しい運転姿勢が取れるように、下記のことにご注意してシートを調整してください。

- ペダル類が十分に踏み込めること
- 背当てから背中を離すことなく、ハンドル操作ができること
- シートベルトが正しく着用できること
- ヘッドレスト中央の高さが耳の後方になること



⚠警告

- 走行中は運転席シートの調整を絶対に行わないでください。シートが突然動き、運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを必要以上に倒して走行しないでください。シートベルトの性能が発揮されません。正しい運転姿勢を取りましょう。
- 背当てと背中 사이에クッションなどを入れないでください。正しい姿勢が取れないばかりか、衝突したときシートベルトなどの拘束保護装置の効果が十分に発揮されず重大な傷害を受けるおそれがあります。

(シートベルト→ 48 ページ)

⚠注意

- シートを調整するときは同乗者や荷物に当たらないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
- シートの調整は、指や手を挟まないように十分に注意して行ってください。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。指や手を挟みけがをするおそれがあります。



フロント シート

シート スライド調整

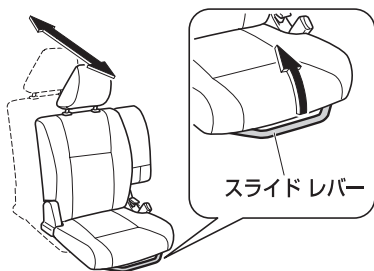
▼調整を行う前に

⚠警告

- スライド調整は必ず運転前に行い、調整後はシートを前後に軽くゆすり、シートが確実に固定されたことを確認してください。シートが固定されていないとシートが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼調整方法

シート下のスライド レバーを引き上げながら、前後にシートをスライドします。



リクライニング調整

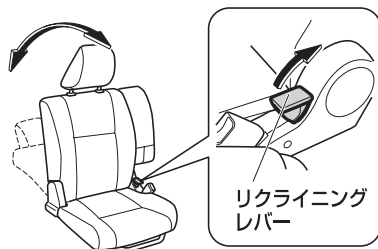
▼調整を行う前に

⚠警告

- リクライニング調整は必ず運転前に行い、調整後は背当てを軽くゆすり、背当てが確実に固定されたことを確認してください。背当てが固定されていないと走行中に背当てが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼調整方法

リクライニング レバーを引き上げながら背当ての角度を調整します。



⚠注意

- リクライニング レバーを引き上げるときは背当てにあまり力をかけないでください。背当てに強い力がかかっていると急に背当てが倒れ、けがをするおそれがあります。

▼背当てを元に戻すときは

⚠注意

- 背当てが急に戻るおそれがありますので、必ず背当てを手で押さえながら操作してください。





ヘッドレストの調整

▼調整を行う前に

⚠警告

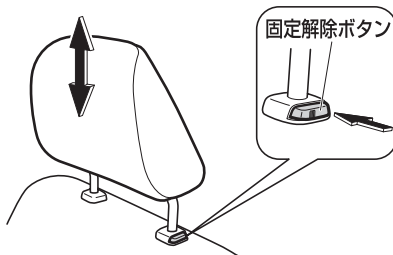
- ヘッドレストを外した状態で走行しないでください。衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。走行前に必ず取り付け、ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
- ヘッドレストを前後逆に取り付けないでください。いざというとき、効果を発揮しません。

▼調整方法

そのまま持ち上げて調整します。

下げるときは固定解除ボタンを押しながら「カチッ」という音がする位置で固定してください。

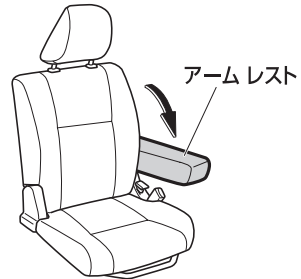
取り外すときは固定解除ボタンを押しながら引き抜きます。



アームレスト

▼使用方法

前に倒して使用します。



👉アドバイス

- シートのリクライニング調整やスライド調整を行うと、アームレストも同時に動きます。



リヤ シート

オプション/グレード別装備

⚠️注意

- 荷室には人を乗せないでください。人が乗る構造になっていないため、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 荷物はフロント シートの背当てより高く積まないでください。後方視界のさまたげになるだけでなく、急ブレーキ時などに前方に荷物が投げ出されるおそれがあります。

シート スライド調整

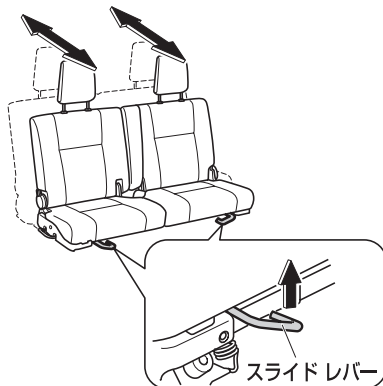
▼調整を行う前に

⚠️注意

- スライド調整は必ず停車中に行い、調整後はシートを前後に軽くゆすり、シートが確実に固定されたことを確認してください。シートが固定されていないと走行中にシートが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼調整方法

シート下のスライド レバーを引き上げながら、前後にシートをスライドします。



👉アドバイス

- 左右独立してスライド調整することができます。





リクライニング調整

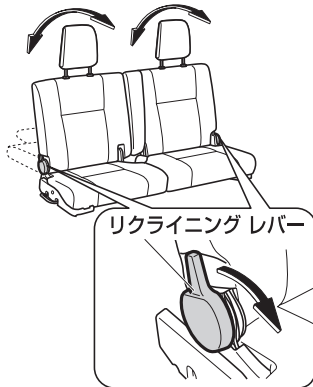
▼調整を行う前に

⚠注意

- リクライニング調整は必ず停車中に行い、調整後は背当てを軽くゆすり、背当てが確実に固定されたことを確認してください。背当てが固定されていないと走行中に背当てが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼調整方法

リクライニング レバーを引きながら背当ての角度を調整します。



⚠注意

- リクライニング調整するときは、背当てにあまり力をかけないでください。背当てに強い力がかかっていると急に背当てが倒れ、けがをするおそれがあります。



アドバイス

- 左右独立してリクライニング調整することができます。

▼背当てを元に戻すときは

⚠注意

- 背当てが急に戻るおそれがありますので、必ず背当てを手で押さえながら操作してください。

ヘッドレストの取り外し

▼操作を行う前に

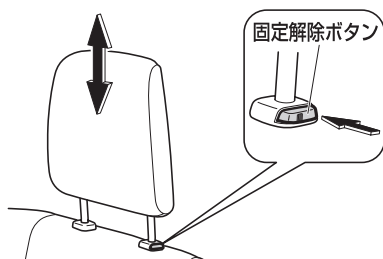
警告

- リヤシートに人を乗せるときは、ヘッドレストを外したまま、または下げた状態のまま走行しないでください。衝突時などに、首に大きな衝撃が加わり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレストは必ず上げた状態で使用してください。
- ヘッドレストを前後逆に取り付けないでください。いざというとき、効果を発揮しません。

▼操作方法

取り外すときは、固定解除ボタンを押しながら引き抜きます。

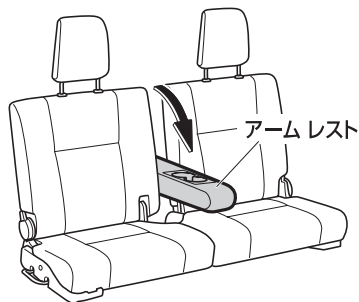
取り付けるときは、「カチッ」という音がする位置で固定してください。



アームレスト

▼使用方法

前に倒して使用します。



アドバイス

- シートのリクライニング調整やスライド調整を行うと、アームレストも同時に動きます。

リヤ シートを格納するとき

▼操作を行う前に

⚠警告

- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠注意

- リヤ シートを格納および元に戻すときは、格納位置に人がいないことや、壊れやすい物がないことを確認してください。
- 操作するときは、手などを挟まないように注意してください。
- リヤ シートを格納した状態で、荷室に人を乗せて走行しないでください。急ブレーキ時など体が固定されず危険です。
- 格納および元に戻す場合は、必ず格納レバーを持って操作してください。

📖アドバイス

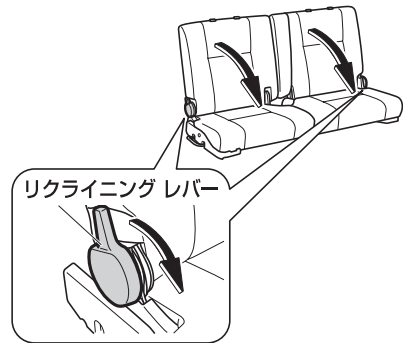
- リヤ シートは左右独立して格納することができます。

▼操作方法

1. ヘッド レストを外します。
2. リヤ シートを後方いっぱいまでスライドさせます。

📖アドバイス

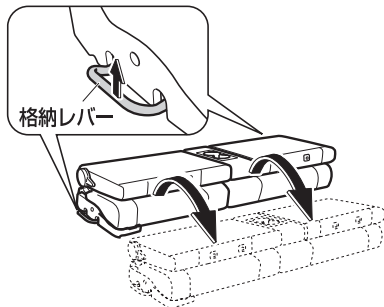
- リヤ シートはシートを後方いっぱいまでスライドさせないと、格納レバーでロックを解除できない構造になっています。
3. リクライニング レバーを引き、リヤシートの背当てを前に倒します。



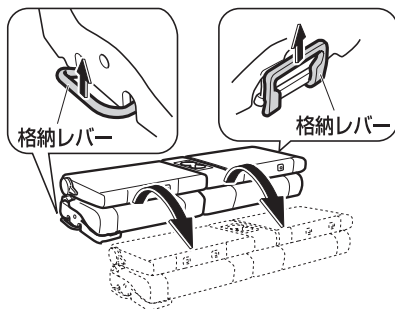


4. 格納レバーを引き上げて、ロックを解除し、さらにレバーを引き上げながら、リヤシートを持ち上げ、車両前方に格納させます。

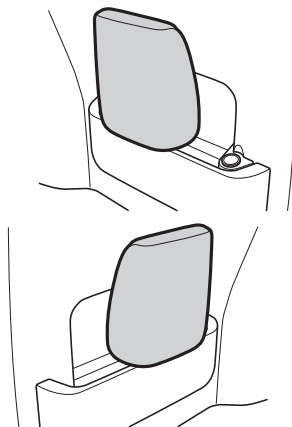
パワー スライド ドア装着車以外



パワー スライド ドア装着車



5. ヘッドレストをリヤ クォーター ポケットに収納します。





▼元に戻すときは

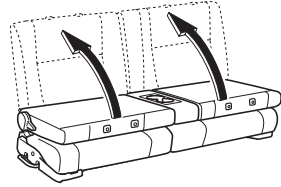
1. シートをいったん上に引き上げたあと、後方に回転移動させ真上からロックします。



⚠注意

- シートを元に戻すときは、確実にシートをロックさせてください。シートが固定されていないと走行中にシートが動き、思わぬけがをするおそれがあります。

2. 背当てを「カチッ」と音がするまで起こします。



⚠注意

- リヤ シートの背当てを起こしたあとは、背当てが確実に固定されていることを確認してください。背当てが固定されていないと、走行中に背当てが動き思わぬけがをするおそれがあります。

3. ヘッドレストを取り付けます。



ソフト フラット シート

フル フラットにするとき

オプション/グレード別装備

▼操作を行う前に

⚠警告

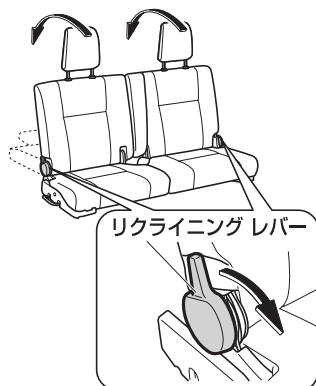
- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠注意

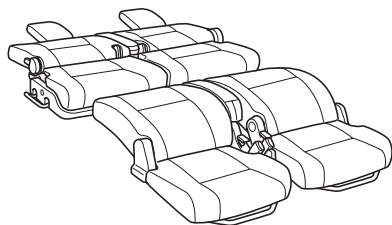
- フル フラットにした状態で人を乗せたまま走行しないでください。急ブレーキ時など体が固定されず危険です。
- フル フラットにした状態で、シートの上を動き回ったりしないでください。
- シートの上を移動するときは、足を踏み外すおそれがあり危険です。シートの中央を踏んでゆっくり移動してください。
- フル フラット状態は安全な場所に車を止めて休息するときに使用してください。

▼操作方法

1. リヤ シートのリクライニング レバーを引き、背当てを床と水平になるまで倒します。



2. フロント シートのヘッド レストを外します。
3. フロント シートを前方へスライドさせます。
4. フロント シートの背当てをリヤ シートと同じ高さになるまで倒します。



▼元に戻すときは

逆の手順で操作してください。





シートベルト

正しい着用

運転者は車を運転する前に、下記のこと
に注意してシートベルトを着用し、必ず
同乗者にも着用させてください。シート
ベルトは正しく着用しないと効果が半減
したり、危険な場合があります。

シートベルトの使用方法を十分に理解し、
正しい取り扱い方を身に付けてくださ
い。



- シートを調整し、上体を起こし深く腰かけて座ること
- シートベルトにねじれがないこと
- シートベルトが肩に十分かかっていること、また必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること

⚠警告

- シートベルトの着用は腹部をさけ、必ず腰骨の位置にしてください。衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、シートベルトによりけがをするおそれがあります。
- シートベルトの肩にかかる部分を脇の下に通して着用しないでください。シートベルトが肩に十分かかっていないと衝突したときなどに体が前方に投げ出されるおそれがあります。
- シートベルトの経路をさまたげる荷物の積みかたはしないでください。衝突したときなどに効果が十分発揮されません。

正常な経路

異常



- お子さまにも必ずシートベルトを着用させるか、チャイルドシートを使用してください。
ひざの上でお子さまを抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまへの重大な傷害につながるおそれがあります。

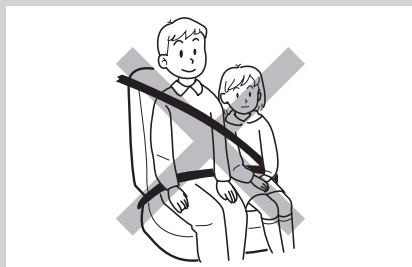


⚠警告

- シートベルトは、それを着用するのに十分な大人の体格を持った人用に設計されています。
- 6歳未満のおさまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられていますので、必ずチャイルドシート（別売）を使用してください。
（チャイルドシート→53ページ）
（チャイルドシートの固定のしかた→60ページ）
- 妊娠中の方もシートベルトを着用してください。ただし、万一のとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがありますので、シートベルトの着用については、医師に相談のうえ、注意事項を確認してください。
- 腰ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置、お腹の膨らみの下に密着させて着用してください。腰ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。
- 肩ベルトは、お腹の膨らみをさけ必ず胸部に着用してください。肩ベルトを腹部にかけていると衝突したときなどに、腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。

⚠警告

- シートベルトは1人用です。2人以上で1本のシートベルトを使用しないでください。衝突時にシートベルトが正常に動かず、けがをするおそれがあります。



- シートの背当てを必要以上に倒して走行しないでください。衝突時に体がシートベルトの下にもぐり、ベルトが腰骨にかからず腹部にかかることになり、シートベルトによりけがをするおそれがあります。
- ハンドルやメーターに必要以上に近づいて運転しないでください。衝突したときなどシートベルトの効果が発揮されません。
- シートベルト使用時、クリップなどでたるみをつけないでください。衝突時など効果を発揮しなくなります。





⚠警告

- シートベルトが汚れた場合は中性洗剤を使用してください。ベンジンなどの有機溶剤を使用すると、シートベルトの性能が落ち、十分な効果を発揮できません。同様にシートベルトの脱色や染色もやめてください。
- シートベルトを着用した状態で万一事故にあった場合は、スバル販売店でシートベルト一式を交換してください。シートベルト自体が損傷している場合があり、性能を十分発揮できないおそれがあります。
- 常にシートベルトにほつれや、擦り切れなどの異常がないかを点検してください。異常がある状態で使用すると衝突時に正常にはたらかず、性能を十分発揮できないおそれがありますので、スバル販売店で交換してください。
- バックルや巻き取り装置の内部に異物などを入れないようにしてください。また、シートベルトの改造や取り付け、取り外しをしないでください。衝突時に十分な効果を発揮できないおそれがあります。



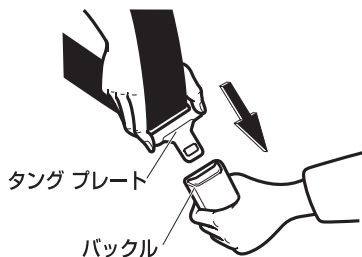


3点式ELRシートベルト

長さ調整の必要はありません。通常は体の動きに合わせて伸縮しますが、緊急時にはロックし、体を固定します。

▼着用するとき

1. 正しい運転姿勢が取れる位置にシートベルトを調整します。
2. タングプレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認したのち、バックルの中にタングプレートを「カチッ」と音がするまで差し込みます。



⚠警告

- 肩部ベルトは、脇の下に通して着用しないでください。ベルトが十分肩にかかっていないと十分な効果を発揮しません。

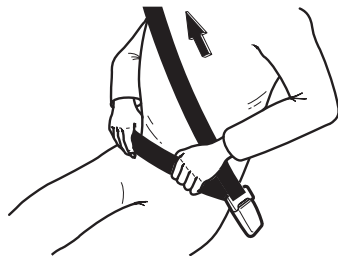
⚠注意

- タングプレートを差し込むとき、タングプレートでバックルを無理にこじらないでください。

📖アドバイス

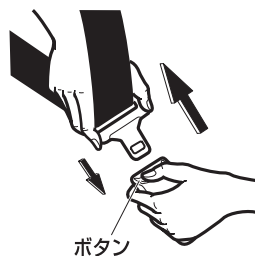
- ベルトがロックし引き出せない場合は、ベルトをゆるめてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せない場合は、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、もう一度ゆっくり引き出してください。
- 運転席シートベルトは、シートベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約 20km/h以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。
(シートベルト警告灯 → 127 ページ)

3. 腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるとし、肩部ベルトを引いて腰部に密着させます。



▼外すとき

バックルのボタンを押します。ベルトは自動的に収納されますので、ねじれや引っかかりなどがなければ確認します。





プリテンショナー& 可変ロード リミッター機構付 シート ベルト

フロント シート

⚠警告

- プリテンショナー&可変ロード リミッター機構付シート ベルトは絶対に取り外さないでください。また、分解、改造もしないでください。
- 下記のような場合は必ずスバル販売店にご相談ください。お客様自身で行うと、プリテンショナー機構が思いがけなく作動するおそれがあるほか、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - 車両前部を修理するとき
 - 無線機を取り付けるとき
 - 廃車にするとき

プリテンショナー機構

前方からの強い衝撃を受けるとプリテンショナー機構が作動し、シート ベルトを瞬時に引き込み、上体をシートにしっかりと固定してシート ベルトやSRSエアバッグの効果をいっそう高めます。

⚠注意

- プリテンショナー機構付シート ベルトは一度作動すると再使用できません。最寄りのスバル販売店で交換してください。



アドバイス

- プリテンショナー機構はシート ベルトを着用していなくても前方からの強い衝撃を受けると作動します。

可変ロード リミッター機構

前方からの強い衝撃を受けた場合、シート ベルトにある一定以上の荷重がかかったときに作動し、それ以上荷重がかからないようにする機構で、乗員の胸に加わる力を減少させます。

⚠注意

- 可変ロード リミッター機構付シート ベルトは一度作動すると再使用できません。最寄りのスバル販売店で交換してください。



チャイルド シート

チャイルド シート

6歳未満のお子さまはチャイルド シートの着用が法律で義務付けられていますので、必ずチャイルド シートをご使用ください。

車両に固定するチャイルド シートには、ISO^{*1} FIX対応ISO FIX固定バー&テザー アンカーで固定するタイプとシート ベルトで固定するタイプがあります。

(チャイルド シートの固定のしかた
→ 60 ページ)

チャイルド シートの固定方法、および取り扱い方法は、各チャイルド シートに付属の取扱説明書をお読みください。

👉 アドバイス

- 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて適切なチャイルド シートを選んでください。

チャイルド シートについて

- ここでは、ベビー シート、チャイルド シート、ジュニア シートの総称として、「チャイルド シート」と呼んでいます。

(チャイルド シートの種類→ 54 ページ)

チャイルド シートの 質量グループについて

ECE R44^{*2} の基準に適合するチャイルド シートは、お子さまの体重により、5 種類の質量グループに分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0+	13kgまで
グループI	9~18kg
グループII	15~25kg
グループIII	22~36kg

*1 International Organization for Standardization
(国際標準化機構) の略

*2 チャイルド シートに関する国際的な安全基準です。





チャイルド シートの種類

○ベビー シート

体重の目安：～13kg

質量グループ 0、0+に相当します。

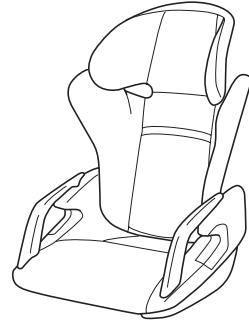


○ジュニア シート

体重の目安：15～36kg

年齢の目安：3～12歳

質量グループ II、IIIに相当します。



○チャイルド シート

体重の目安：9～18kg

質量グループ 0、0+および I に相当
します。



(チャイルド シートの質量グループ
について→ 53 ページ)



チャイルド シートの選びかた

次の適合性一覧表から、各シート位置でどのチャイルド シートが使用できるかを選択してください。

- ISO FIX対応ISO FIX固定バー&テザー アンカーで取り付ける場合
(ISO FIX対応ISO FIX固定バー&テザー アンカーで取り付けるチャイルド シート
適合性一覧表→ 56 ページ)
- シート ベルトで取り付ける場合
(シート ベルトで取り付けるチャイルド シート
適合性一覧表→ 59 ページ)

アドバイス

- お子さまに適切なチャイルド シートについては、スバル販売店、チャイルド シート製造業者、または販売店にご相談ください。



ISO*1 FIX対応ISO FIX固定バー&テザー アンカーで 取り付けるチャイルド シート適合性一覧表

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両ISO FIX位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0 (10kgまで)	E	ISO/R1	IL*2
0+ (13kgまで)	E	ISO/R1	IL*2
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
I (9~18kg)	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF*2
	B1	ISO/F2X	IUF*2
	A	ISO/F3	IUF*2
II (15~25kg)		—	×
III (22~36kg)		—	×

●記号の説明

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリのISO FIX対応の前向きチャイルド シートのみ取り付け可能です。

IL：この質量グループでの使用を許可された下記「ISO FIXチャイルド シートのリスト」に示す準汎用（セミ ユニバーサル）カテゴリのチャイルド シートのみ取り付け可能です。

×：ISO FIX対応チャイルド シートを取り付けることはできません。

*2 チャイルド シートを取り付けるときは、チャイルド シートを取り付けるシートの前席背当てを直立状態にしてください。

●ISO FIX対応チャイルド シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISO FIX対応チャイルド シート	カテゴリ
0 (10kgまで)	E	ISO/R1	スバル純正ISO FIXベビー シート	準汎用
0+ (13kgまで)	E	ISO/R1		

表に記載されていないチャイルド シートを使用する場合は、チャイルド シート製造業者または販売業者にご相談ください。

*1 International Organization for Standardization（国際標準化機構）の略



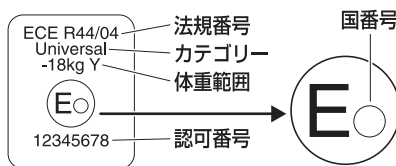
アドバイス

- この車のISO FIX対応ISO FIX固定バー&テザー アンカーは、2006年10月1日施行の新保安基準に適合しています。
これには、ECE R44 に適合しているISO FIX対応チャイルドシートしか取り付けることができません。
- ECE R44 に適合しているISO FIX対応チャイルドシートには、下記の認可ラベルが表示されています。
- スバル純正ISO FIX対応チャイルドシートであることを示す表示の一例です。
文字はサイズ等級を表します。

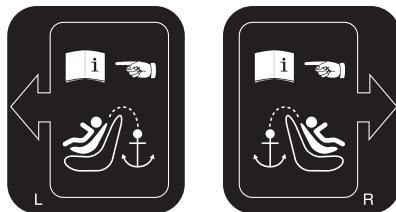


A——サイズ等級

- ECE R44 の認可マークです。
汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルドシートは、カテゴリーに「UNIVERSAL」と表示されています。



- スバル純正ISO FIX対応テザー アンカーの位置を示すマークの一例です。



- スバル純正の準汎用（セミユニバーサル）カテゴリー、および汎用（ユニバーサル）のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用についてはスバル販売店にご相談ください。

 アドバイス

- チャイルドシートを購入するときは、ISO FIXサイズ等級に一致したものをお選びください。

サイズ等級	固定具	お子さまの体格	使用の向き	形状、大きさ
A	ISO/F3	幼児	前	大型
B	ISO/F2	幼児	前	中型
B1	ISO/F2X	幼児	前	中型
C	ISO/R3	幼児	後ろ	大型
D	ISO/R2	幼児	後ろ	中型
E	ISO/R1	乳児	後ろ	小型

- 詳しくは、スバル販売店、チャイルドシートの製造業者、または販売店にご相談ください。



シート ベルトで取り付けるチャイルドシート適合性一覧表

質量グループ	座席位置	
	フロントシート	リヤシート
	助手席	左右席
0 (10kgまで)	×	U*
0+ (13kgまで)	×	U*
I (9~18kg)	×	U*
II (15~25kg)	×	U*
III (22~36kg)	×	U*

●記号の説明

U : この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルドシートが取り付け可能です。

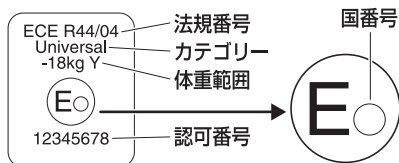
× : チャイルドシートを取り付けることはできません。

* チャイルドシートを取り付けるときは、リヤシートを前方いっぱいまでスライドさせてください。

表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、スバル販売店、チャイルドシート製造業者または販売店にご相談ください。

👉 **アドバイス**

- チャイルドシートを購入される際は、質量グループに一致したものを選択してください。
(チャイルドシートの選びかた→ 55 ページ)
- ECE R44 に適合している「U」のチャイルドシートには、下記の認可ラベルが表示されています。
- カテゴリーの「UNIVERSAL」は、汎用（ユニバーサル）チャイルドシートの認可であることを表します。





チャイルド シートの固定のしかた

⚠警告

- チャイルド シートはリヤ シートに取り付けてください。
- 助手席に前向きや後ろ向きのチャイルド シートを絶対に取り付けしないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。



- 急ブレーキや事故の際、お子さまの安全のために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルド シートを使用してください。また、お子さまをひざの上で抱いて走行しないでください。衝突したときなどに、十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- チャイルド シート（ジュニア シート）を使用しているときは、ジュニアシート付属の取扱説明書に従ってシートベルトで固定してください。お守りいただかないと、急ブレーキや衝突時などにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠警告

- チャイルド シートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みの上、確実に取り付け使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- チャイルド シートやシート ベルトが確実に固定されていることを前後左右にゆさぶり確認してください。
- チャイルド シートは、お子さまを乗せていないときでもしっかりとシートに固定しておいてください。また、荷室に収納する場合でも、ロープなどを利用して固定してください。固定しないまま客室または、荷室に放置すると、ブレーキをかけたときなどにチャイルド シートが動き乗員や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- お子さまをシート ベルトで遊ばせないでください。万一シート ベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、シート ベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシート ベルトを切断してください。



⚠️注意

- 標準装備のシートベルトは大人用です。6歳未満のお子さまは、チャイルドシートの着用が法律で義務付けられていますので、必ずチャイルドシートを使用してください。取り付けはチャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。
- シートベルトに損傷をあたえないよう、取り付けにあたっては十分注意してください。

👉アドバイス

チャイルドシートをリヤシートに取り付けるときは

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、正しい運転姿勢が確保できない場合は、リヤシートの助手席側に取り付けてください。

(正しい運転姿勢→ 38 ページ)

チャイルドシートを使用しないときは

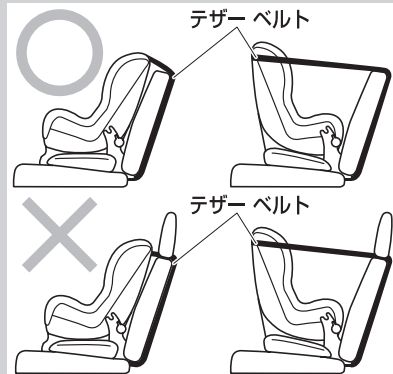
- チャイルドシートを長時間使用しない場合は、荷室に固定するか、車両から外して保管してください。シートに取り付けたままにしておくと、シートが変色したり、型くずれするおそれがあります。

ISO FIX対応ISO FIX 固定バー&テザー アンカーによる固定

▼チャイルドシートを取り付ける前に

⚠️警告

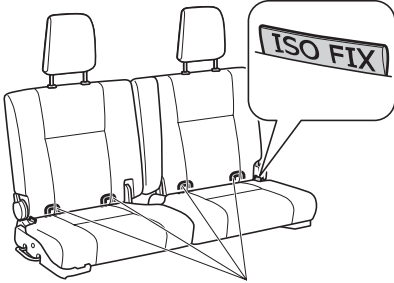
- チャイルドシートを取り付けるときは、ISO FIX対応ISO FIX固定バー&テザーアンカー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。異物やシートベルトなどのかみ込みとチャイルドシートが正しく固定されず、衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- チャイルドシートを取り付けるときは、リヤシートのヘッドレストを取り外してから、テザーアンカーに固定してください。





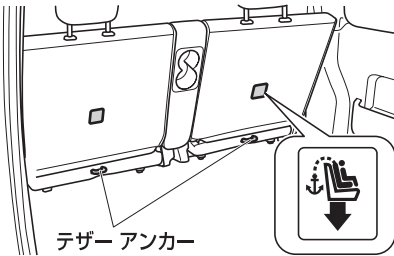
▼取り付けかた

1. ISO FIX対応ISO FIX固定バー&テザーアンカーの位置を確認します。
- 固定バーが装備されていることを示すタグがシートについています。



ISO FIX対応ISO FIX固定バー

- テザー アンカーを示すマークが背当て裏側にあります。



テザー アンカー

2. リヤシートを後方いっぱいまでスライドさせて、背当てを直立状態にします。
3. チャイルドシートを取り付けるシートのヘッドレストを取り外します。
4. チャイルドシートのベースシートをISO FIX固定バーに確実に取り付けます。
5. ISO FIXチャイルドシート（テザー式）をチャイルドシートのベースシートに確実に取り付けます。
6. ISO FIXチャイルドシート（テザー式）を上下左右に軽くゆさぶり、ISO FIX固定バーに確実に固定されていることを確認します。
7. ISO FIXチャイルドシート（テザー式）のテザーベルトのフックをテザーアンカーに確実に引っかけます。
8. ISO FIXチャイルドシート（テザー式）のテザーベルトがピンと張る（5kg程度）まで強く引っ張って、チャイルドシートの上側を確実に固定します。

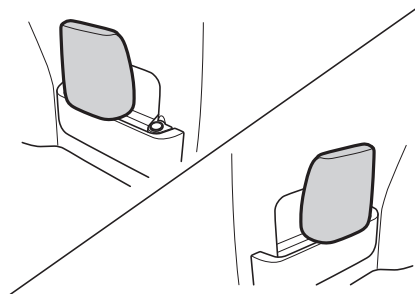


9. ISO FIXチャイルド シート（テザー 式）のテザー ベルトを軽く引っ張り、テザー アンカーに確実に固定されていることを確認します。
10. チャイルド シートが確実に固定されていることを前後左右にゆさぶり確認してください。
11. チャイルド シートを取り付けるシーートの前席背当てを直立状態にします。

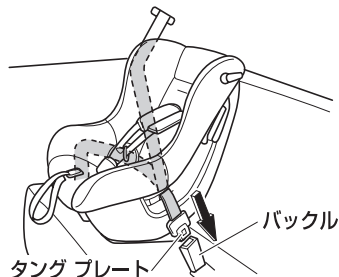
シート ベルトによる固定*

▼取り付けかた

1. リヤ シートを前方いっぱいまでスライドさせて、背当てを直立状態にします。
2. チャイルド シートをリヤ シートに置きます。
 - ヘッド レストにチャイルド シートが干渉するときは、ヘッド レストを「カチッ」という音がする位置まで引き上げるか、取り外してリヤ クォーター ポケットに収納します。



3. タング プレートをつがんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認してから、チャイルド シートの中に通します。



* 固定のしかたは代表例です。

また、イラストは説明のための物であり、実際のチャイルド シートの形状とは異なります。



4. バックルの中にタング プレートを「カチッ」と音がするまで差し込みます。

⚠注意

- タング プレートを差し込むとき、タング プレートでバックルを無理にこじらないでください。

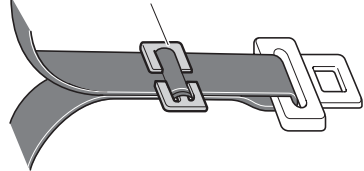
5. チャイルド シートのロック オフ レバーを開き、肩ベルトをロック オフ レバーの下に通します。
6. チャイルド シートに体重をかけてリヤ シートに押しつけながら、肩ベルトをたるみがなくなるまで巻き取らせます。
7. チャイルド シートのロック オフ レバーを閉じ、肩ベルトを固定します。
8. チャイルド シートやシート ベルトが確実に固定されていることを前後左右にゆさぶり確認してください。

⚠注意

- チャイルド シートを固定したあと、シート ベルトでチャイルド シートがロックされていることを必ず確認してください。万一のとき効果を発揮しないおそれがあります。

9. チャイルド シートにシート ベルトの固定装置が付いていない場合は、ロッキング クリップを使用して固定します。

ロッキング クリップ



📖アドバイス

- ロッキング クリップの取り付けは、チャイルド シートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。
また、ロッキング クリップの購入については、スバル販売店にご相談ください。

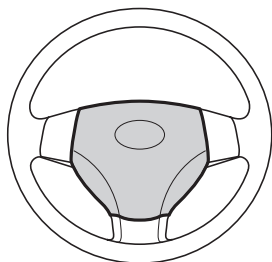
SRSエアバッグ

SRS*エアバッグ

SRSエアバッグは、車両前方からの強い衝撃により、センサーが一定以上の衝撃（重大な危害がおよぶような強い衝撃）を感知すると瞬時に膨らみます。

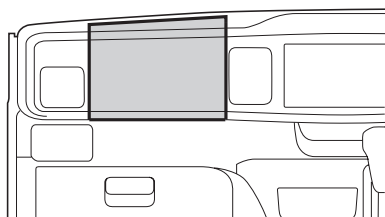
運転席SRSエアバッグ

シートベルトで体を拘束するはたらきと併せて、運転者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。



助手席SRSエアバッグ

シートベルトで体を拘束するはたらきと併せて、助手席同乗者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。



警告

- シートベルトは必ず着用してください。SRSエアバッグはシートベルトを補助するための装置で、シートベルトの代わりではありません。
- シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキなどで放り出されると同時にSRSエアバッグが膨らんだ場合、強い衝撃を受け危険です。
(正しい着用→ 48 ページ)
- シートを正しい位置に調整してください。シートを正しい位置に調整しないと、SRSエアバッグの効果を発揮させることができず、衝突したときなど重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 正しい姿勢でシートに座ってください。正しい姿勢で座らないとSRSエアバッグの効果を発揮させることができません。また、運転席SRSエアバッグはハンドルに近付きすぎると、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ハンドル、インストルメントパネルは、絶対に取り外したり、分解しないでください。また、強い衝撃もあたえないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。

* Supplemental Restraint System (サプリメンタル レストレイント システム) の略で、乗員保護補助装置の意味です。

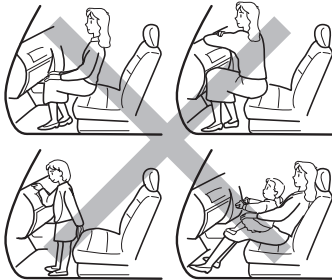




⚠警告

- SRSエアバッグは、絶対に改造や分解をしないでください。
- SRSエアバッグが膨らんだあとに、その構成部品に触れないでください。非常に熱くなっているののでやけどをするおそれがあります。
- 助手席SRSエアバッグについては必ず下記の注意事項をお守りください。
- シートの前端に座ったり、インストルメント パネルにもたれかかったりしないでください。また、お子さまをインストルメント パネルの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。

助手席SRSエアバッグは瞬時に車室内に大きく膨らみますので、SRSエアバッグが膨らんだときの強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⚠警告

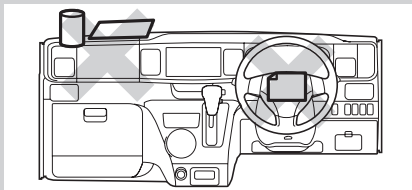
- 助手席に前向きや後ろ向きのチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。





⚠警告

- SRSエアバッグの展開部にステッカーを貼ったり、カバーを付けないでください。いざというときにパッド部が開かずSRSエアバッグが作動しないおそれがあります。
- インストルメント パネルの上にジュースや物を置かないでください。SRSエアバッグが膨らむときの衝撃でけがをするおそれがあります。



- ステアリング パッド、インストルメント パネルの上などSRSエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠警告

- SRSエアバッグの効力を十分に発揮させるため、下記の事項を必ず守ってください。
- サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
- 車両前部にグリル ガードなどを装着する場合は、最寄りのスバル販売店にご相談ください。
- 無線機の電波などは、SRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、スバル販売店にご相談ください。
- SRSエアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRSエアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。





⚠注意

- SRSエアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。
この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出ることができない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
また、SRSエアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。
- 衝突時などに助手席SRSエアバッグが膨らむことによって、車両のフロントウインドウ ガラスが破損することがあります。
- SRSエアバッグは一度作動すると再使用できません。必ずスバル販売店で交換してください。

⚠注意

- 下記のような場合は必ずスバル販売店にご相談ください。
お客様自身で行うと、SRSエアバッグが思いがけなく作動し、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ハンドルを取り外すとき
 - 車両前部を修理するとき
- 車やSRSエアバッグを廃棄するときは必ずスバル販売店にご相談ください。
SRSエアバッグが思いがけず作動し、けがをするおそれがあります。
- SRSエアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずスバル販売店で交換してください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

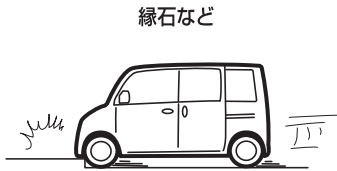


作動する場合

SRSエアバッグは車両前方からフロントバンパーに強い衝撃を受けたとき作動します。また、同時にプリテンショナー機構も作動します。

走行中に路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときは、まれにSRSエアバッグが作動することがあります。

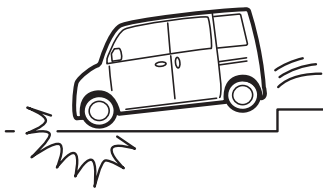
- 高速で縁石などに衝突したとき



- 深い穴や溝に落ち込んだとき



- ジャンプして地面に衝突したとき



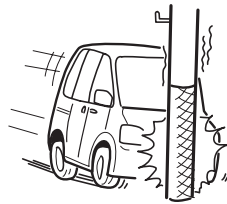
作動しない場合

下記のように前方からの衝撃が弱い場合や、衝撃が車体により十分吸収された場合など、車両の損傷が大きくても作動しないことがあります。

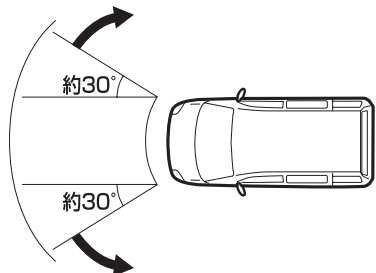
- コンクリートの壁に約 20km/h以下の速度で正面衝突したとき



- 電柱などポール状の物に正面衝突したとき

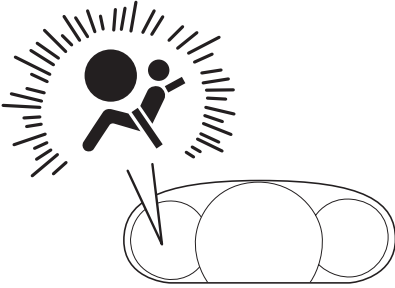


- 前方約 30°以上の角度でコンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき

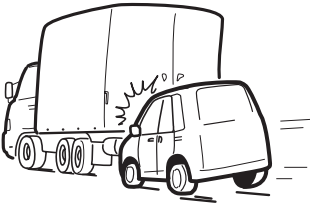




- SRSエアバッグ警告灯点灯時



- 大型トラックの後部荷台下にもぐり込んだとき

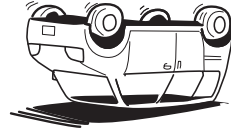


下記のようなときも作動しないことがあります
り効果を発揮しません。

- 側面や後方から衝撃を受けたとき

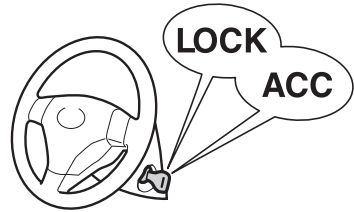


- 車両が横転、転覆したとき



下記のようなときは、SRSエアバッグが
作動しません。

- エンジン スイッチが“LOCK”、
“ACC”の位置のときに衝突したとき





SRSエアバッグ警告灯

メーター内に警告されます。



- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置で、下記のシステムに異常があると点灯します。

▼異常があると点灯するシステム

- SRSエアバッグ
(SRSエアバッグ→ 65 ページ)
- プリテンショナー機構
(プリテンショナー機構→ 52 ページ)

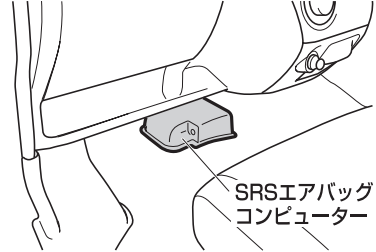
△注意

点灯した場合

- 車両にできるだけショックをあたえずに走行し、ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

SRSエアバッグ コンピューター

SRSエアバッグを制御する装置です。



SRSエアバッグ
コンピューター

△注意

- SRSエアバッグ コンピューターは、絶対に取り外したり、分解しないでください。
SRSエアバッグが誤って展開したり、いざというときに作動しないおそれがあります。
- SRSエアバッグ コンピューターには、水、ジュースなどをかけないように注意してください。
万一こぼしたときは、ただちにふき取ってください。
- SRSエアバッグ コンピューターおよびその近を強くたたいたり、蹴ったりしないでください。
- SRSエアバッグが一度作動すると再使用できません。スバル販売店で交換してください。



ABS

ABS* (EBD機能付)

- 急制動時や滑りやすい路面における制動時には、車輪がロックして方向安定性と操舵能力が低下することがあります。ABSは、このような状況下に発生する車輪ロックを防止して操舵能力を確保しようとする装置です。

▼ EBD

Electronic Brake force Distribution (電子制動力配分制御) の略で、車両の走行状態や積載状態に応じて最適な制動力配分を行う機能です。積載時のブレーキの効きを確保することができます。

⚠注意

- ABSを過信しないでください。ABSが作動した状態でも車両の方向安定性や操舵性の確保には限界があり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 下記の場合などにはABSの付いていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。速度を控えて十分に車間距離を取ってください。
 - 砂利道、新雪路を走行しているとき
 - タイヤ チェーンを装着しているとき
 - 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき
 - 凹凸道などの悪路を走行しているとき
 - タイヤ空気圧が適正空気圧より高いときに荒れた路面を走行したとき

*ABSは、Anti-lock Brake System (アンチロック ブレーキ システム) の略です。



アドバイス

- 低速（約 10km/h以下）では、ABSは作動せず、普通のブレーキと同じ作動になります。
- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると、メーター内のABS警告灯が点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン始動後にABS警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、スバル販売店で点検を受けてください。
- エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジン ルームからモーターなどの音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしているときの音で、異常ではありません。
- 走行中にABS警告灯が点灯した場合、通常のブレーキとしての性能は確保されていますが（ABSとしての作動はしません）、スバル販売店で点検を受けてください。
- ABSの作動中および作動後は、ブレーキ ペダルが奥に入り込むことがあります。また、ABSが正常に作動しているときは、ブレーキ ペダルを踏むとペダルがこきざみに動き「カタカタ」と作動音がすることがありますが、システムの異常ではありません。
- 雨の日にマンホールのふた、橋の継ぎ目などの滑りやすい場所でブレーキペダルを踏むとABSが作動しやすくなります。
- 急ブレーキ時は、ブレーキ ペダルを強く踏み続けてください。ブレーキペダルをゆるめるとABSが効果を発揮できません。

アドバイス

- 急ブレーキ時にポンピング ブレーキ*はしないでください。ポンピング ブレーキをすると制動距離が長くなります。

* ブレーキ ペダルを数回に分けてこきざみに踏むブレーキのかけかた

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing a memo.